

特定非営利活動法人 太平洋戦史館

戦史館だより

2015年9月30日発行
戦史館事務局〒029-4427
岩手県奥州市衣川区陣場
下4-1 盤オフィス花岡
編集発行人 花岡千賀子

会長理事 岩淵 宣輝 専務理事 大瀧 久治 ☎0197-52-3000 FAX 0197-52-4575

9.19（土）第14回通常総会に会員が結集

岩淵会長理事「本日未明“戦争法案”が参院で強行採決されました。しかしこれでもう終わりだなどとがっかりすることはありません。かえってバネになったようなものです。この悪法を廃止に追い込み、戦史館は『避戦』の活動を続けましょう。戦争には、勝者も敗者もない。そこにあるのは被害者だけです。ビアクからはまだ1万人が未帰還で、陸続きの東部ニューギニアからの敗走ルートにあるプアイ村での収容もまだ続く中、ようやくジャイカ(独立行政法人 国際協力機構)によるパプアへの草の根支援の光が見えてきた今こそ！今日がスタートです。」とあいさつし、活動の継続を呼びかけました。



遺骨帰還の活動…放置されたままの遺骸を発見し帰還に繋げる活動は、戦死者の人権を護るために、若者が再び戦場に駆り出されない…送り出さないために、そして現地に残された危険物を撤去して二次被害を防ぐために、途中で投げ出すわけにはいきません。今年の総会は、本当の意味での積極的平和を求める会員の気持ちが結集しました。

114通の委任状からも会員の『避戦』の思いが伝わってきます。「平成8年、現地へ慰霊の旅に参加させていただき、戦闘でなく飢餓やマラリアでの死者が圧倒的だったと知りました。遺骨が野ざらしになっている現実を見ました。」「最近では日本国内の戦争に関わる状況で“生涯戦争”の自分を生きなければならないのかと思っていましたが、まだ大丈夫“生涯避戦”で生きようと思い直しました。」「先日のアンケート、返答はまだですが、政治は？老後は？と悩みます。右への道だけは止めたいと国会行動に参加しました。」「戦争法案、バカにつける薬はないとはこのことです。次の選挙では一票をおろそかに投じてはなりません。」「戦争の実相を次の世代にありのまま伝える活動は、ますます重要になってきています。私も日韓遺族の架け橋となって奮闘しています。ともに頑張りましょう。」「新たな“戦前”“戦中”が始まるかもしれない。新たな“戦没者の遺骨”が生まれるのでしょうか？許しがたい逆コースです。戦後を終わらせてなりません。」他多数

特定非営利活動に係る事業会計収支報告書

2014年度特定非営利活動法人太平洋戦史館 2014年8月1日から2015年7月31日まで

15期収支予算(一般会計)

2015年8月1日～2015年7月31日まで

科 目 ・ 摘 要			金 額 (単位:円)			金 額		
I 収入 の 部	1. 会費収入 () (内: 謝金)			679,200			606,000	
	正 会員[3,000×202] (221名)		606,000			540,000		
	会報会員[1,200×61] (65名)		73,200			66,000		
	賛助会員[30,000×0] (0)		0			0		
	2. 寄附金収入 (1,872,565)		1,648,570	1,648,570		2,000,000	2,000,000	
II 支出 の 部	3. 事業収入(謝金・報酬)	(82,500)	53,580	53,580		94,000	94,000	
	4. 専従役員から借入れ		100,000	100,000				
	当期収入合計			2,481,350				2,700,000
	1. 事業費			1,703,920			1,820,000	
	専従者給与 (960,000)	960,000				1,200,000		
	旅費交通費 (181,862)	130,890				120,000		
	送料通信費 (234,749)	269,889				200,000		
	出版発行費 (150,180)	153,252				150,000		
	調査研究費 (47,850)	65,331				40,000		
	展示館光熱費 (57,784)	59,976				60,000		
	事務消耗品費 (30,387)	64,582				30,000		
	現地協力費 (0)	0				20,000		
	2. 管理費			803,938			810,000	
	会費・会議費 (7,468)	10,200				10,000		
	施設使用料 (600,000)	600,000				600,000		
	管理諸費 (192,550)	171,698				180,000		
	雑費(謝金・報酬)	(23,690)	22,040			20,000		
	3. 借入金返済 (300,000)	0				100,000	100,000	
	当期支出合計			2,507,858		予備費17,809	17,909	2,747,809
	当期収支差額			▲26,508			▲47,809	
	前期繰越収支差額			74,317			47,809	
	次期繰越収支差額			47,809				0

予定の議事は議案書どおり承認されました。

前年度の主な活動は厚労省委託の未送還情報収集事業と、その結果となる政府派遣遺骨帰還で、パイ村から61柱の帰還が実現しました。一般会計は収支共に縮小し、支出合計2,507,858円、収入は2,381,350円にとどまったため、専従役員から10万円借入れとなりました。特別会計のH26年度未送還情報収集事業は、委託事業収入(利息)が20,549,474円消費税を含む支出合計20,791,320円、6月19日に厚労省が最終清算を承認、9月15日に消費税875,100円を納税しました。新年度8月から未送還第2次3次派遣が続いています。

各戦域別(戦艦はインドネシア)未送還情報収集事業は、来年3月で終了ですが「その後の遺骨帰還はどうなるの?」という質問が寄せられています。超党派国会議員が成立を目指している『戦没者遺骨収集推進法案』は、昨年の国会では小渕、松島、両自民党議員の問題で国会が解散したため廃案になり、今国会では時間切れ、参院厚生労働委員会で継続審議となった模様です。この法案が、まるで新たな借金をしたくて昔の借金をあわてて返すかのように、次の戦争の準備をしたくて“遺骨収集で戦後を終わらせたい”などと考えている人が、まさかないであらうことを祈り、ずっと戦後であり続けたいと願い、“避戦”の活動を続けましょう。新たな遺骸の報告があるかぎり、遺骨帰還は止められません。

9月26日～10月9日 ビアク・スピオリ島方面 政府派遣遺骨帰還に向けて

ビアク・スピオリ方面へ政府派遣遺骨帰還派遣団が出発しました。スピオリ市の小島、ムサキ島、アイブラボンディ島で収容し、帰国日9日には遺骨拝礼式と出迎え報告会が予定されています。スピオリ島はビアク島の西の端と橋でつながっていますが、厚労省によると1968年にスピオリ島から遺骨帰還の記録がありますが、ムサキ島やアイブラボンディ島など小島からの帰還は戦後初めてです。スピオリ本島から小島に辿り着いたのか、流れついたのか、日本兵の記録は残されていません。

2014年3月、未送還情報収集で初上陸したアイブラボンディ島、地面に掘られた大きな穴に投げ込まれコンクリート状の塊で蓋をされた遺骸に出会いました。その塊をずらすとその下には10体程の遺骸。白骨となった遺骸が島民なのか、日本兵なのか、その時点では不明でしたが、1年後の2015年3月の再調査で、アイブラボンディ島は当時は無人島で、戦後入植した人々が、砂浜に流れついた日本兵の遺骸を1ヵ所に集めたという証言が得られました。村の牧師、村長、部族長はじめ、大勢の島民(島の人口150人)が立ちあって、死者への祈りを捧げ、コンクリート状の塊を取り除きました。大きな穴から救出された遺骸の頭蓋骨の数は40体分でした。続いて7月の派遣調査で、42柱が遺骨仮安置所に収容され、10月にはドクターによる遺骨鑑定を経て、祖国帰還を果たすことになります。



もう1つの小島ムサキ島は無人島なので日本兵の記録も、住人の当時の証言も得られていませんが、手がかりは遺骸の傍らで見つかった海軍支給のホーロー食器や陶器破片等の遺留品です。2014年3月の調査、ガケの下の波にえぐられた砂浜で、約50体の遺骸が確認されたのですが、翌年3月の再調査では土砂が堆積したり流出してしまった遺骸もあったため、急きょ仮安置所の設置と保管をお願いしました。仮安置所へ収容できたことを確認した6月、波打ち際に生えた木々の中を歩くと、立木が眼窩を貫通している頭蓋骨、木の

根に挟まれた大腿骨…さらに多数の遺骸に出会いました。ムサキ島でも10月の政府派遣遺骨帰還に向けて準備作業が続き、数十体の遺骸が法医学者チームの鑑定を待っています。

